

令和元年度進行管理・評価シート
名古屋市歴史的風致維持向上計画（平成26年2月14日認定）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)

1 計画の実施・推進体制	1
--------------	---

②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)

1 景観計画	2
--------	---

③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)

1 名古屋城重要文化財等展示収蔵施設の整備	3
2 名古屋城二之丸庭園の整備	4
3 名古屋城石垣の整備	5
4 重要文化財「旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判所庁舎」の 保存・公開と市政資料館としての活用	6
5 文化のみち二葉館(名古屋市旧川上貞奴邸)の管理運営	7
6 文化のみち榑木館の管理運営	8
7 名古屋市役所本庁舎及び愛知県庁舎の歴史的価値の維持向上	9
8 栄地区まちづくりプロジェクトの推進(名古屋テレビ塔)	10
9 歴史的町並み保存事業(白壁・主税・榑木地区)	11
10 歴史的町並み保存事業(四間道地区)	12
11 徳川園の管理運営	13
12 蓬左文庫の保存と公開活用	14
13 堀川の総合整備	15
14 中川運河の再生	16
15 栄地区まちづくりプロジェクトの推進(久屋大通公園)	17
16 史跡名勝標札、史跡散策路案内板等設置事業	18
17 歴史的建造物の登録・認定	19
18 なごや歴まちびとの派遣	20
19 文化のみちの推進	21
20 指定文化財(建造物・史跡等)の保存修理事業	22
21 まちづくり協議会等による地域まちづくりへの支援	23
22 名古屋城本丸御殿障壁画復元模写	24
23 名古屋城本丸御殿障壁画保存修理	25
24 郷土ゆかりの文学資料室	26
25 水上交通ネットワークの検討	27
26 「ものづくり文化の道」推進事業	28
27 中区の成り立ち・歴史・文化をいまに伝える事業	29
28 熱田区役所における歴史資料展示	30
29 名古屋まつり	31
30 山車祭り等の伝統行事の継承事業や山車などの保存修理事業、 及びわくわく文化財普及事業など文化財公開活用事業	32
31 伝統産業若手育成事業助成	33
32 伝統産業新商品開発事業助成	34

33 伝統産業製品PR事業助成		35
34 名古屋市民芸術祭		36
35 なごや子どものための巡回劇場		37
36 名古屋市芸術文化団体活動助成		38

④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)

1 文化財調査、市町村による文化財指定、保存管理(活用)計画の 策定・見直しなど		39
2 文化財に関する事業(修理・修景、復元等)、文化財の 周辺環境(道路・博物館等施設)に関する事業など		40
3 防災に関する事業(防火・防犯のための施設設備の設置・改修等) 文化財防火デー等の防災訓練の取組		41
文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への助成・支援 4 (保存会への支援、用具の修理、担い手の育成等)、		42
民間団体と連携・協力した取組、民間団体が実施した取組等 5 埋蔵文化財の取り扱いに関する方針(具体的な計画)		43

⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5) 44

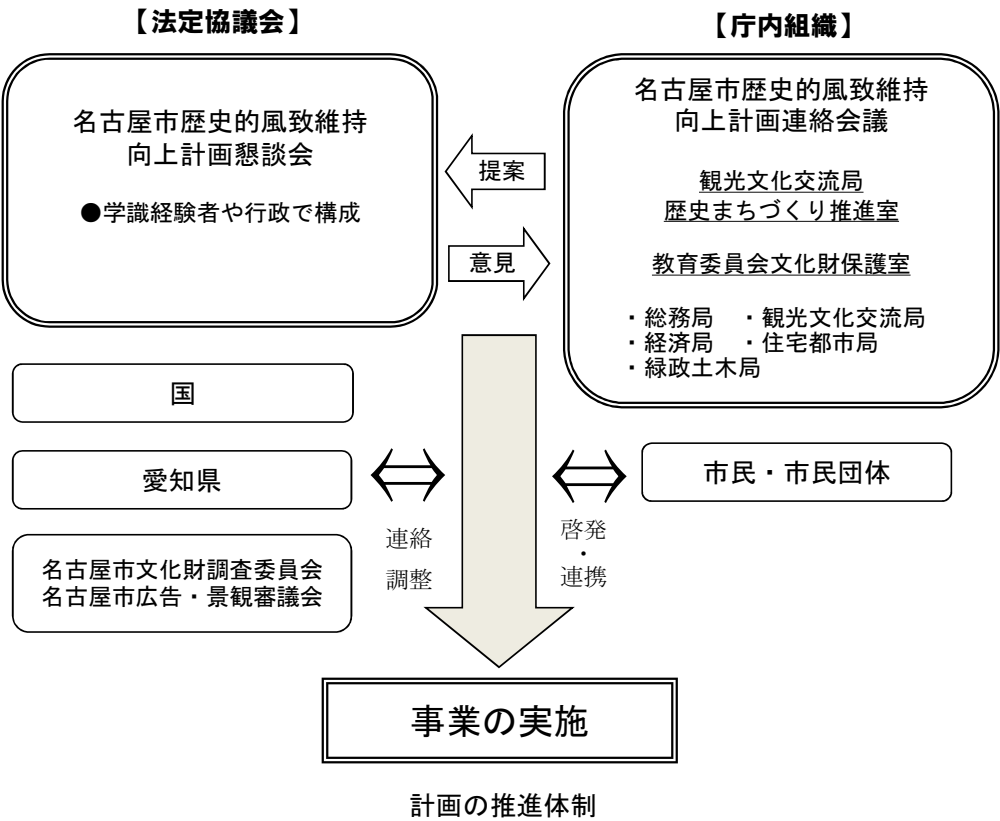
⑥その他(様式1-6) 45

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2) 46

評価軸①
組織体制

項目		評価対象年度	令和元年度
		現在の状況	
計画の実施・推進体制		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
計画に記載している内容	観光文化交流局歴史まちづくり推進室及び教育委員会文化財保護室を中心とした庁内組織である「名古屋市歴史的風致維持向上計画連絡会議」と、学識経験者らで構成される「名古屋市歴史的風致維持向上計画懇談会」が連絡調整を行いながら事業を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
これまでに以下の内容で「名古屋市歴史的風致維持向上計画懇談会」を開催。 平成27年5月…平成25・26年度分進捗評価 平成28年3月…平成27年度分進捗評価 平成29年5月…平成28年度分進捗評価、平成26～28年度総括評価 平成30年5月…平成29年度分進捗評価 令和元年5月…平成30年度分進捗評価			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		今後も関係課及び有識者懇談会との連絡調整を図りながら計画を推進していくが、懇談会の形式や市民団体等との連携については、今回のような非常事態を含め、今後どのような形式で行うべきか検討が必要である。	

状況を示す写真や資料等



評価軸②

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
景観計画		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 都市景観形成地区における良好な景観形成、景観上重要な建築物等についての保全（景観重要建築物・景観重要樹木・都市景観重要建築物等）、屋外広告物の規制

定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で

景観条例及び景観計画に基づき、建築物や工作物等の新築・増改築等の行為に関して適正な規制及び誘導を行い、良好な景観形成に努めた。

- ・都市景観形成地区における届出件数 [平成30年度] 488件 [令和元年度] 551件
- ・都市景観重要建築物等への助成 [平成30年度] 0件 [令和元年度] 0件
- ・屋外広告物許可 [平成30年度] 11,169件 [令和元年度] 11,469件

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）

- 計画どおり進捗している
□計画どおり進捗していない

・地域の特色に合わせた景観形成基準等に基づく助言・指導の実施。
・四間道都市景観形成地区指定をきっかけとして那古野一丁目地区の景観まちづくりを推進しているが、景観に関するルールづくり等について具体的な検討が必要。

状況を示す写真や資料等

○名古屋市景観計画

「歴史の深みを感じさせるまち」を始めとする4つの目指すべき都市のイメージの実現を図ることを全体方針に掲げ、良好な景観の形成を図っている。

1. 都市景観形成地区（8地区）

届出等の制度により景観形成基準等への適合を確認し、助言・指導等を実施。（建築物・工作物/広告物）

【令和元年度の届出等の状況（件数）】

地区名	建築物・工作物	広告物	地区名	建築物・工作物	広告物
久屋大通	15	84	築地	4	21
広小路・大津通	13	190	今池	9	42
名古屋駅	7	141	白壁・主税・榎木	5	3
四谷・山手通	7	7	四間道	1	0

※四間道は平成31年4月より運用開始

2. 大規模建築物等

届出等の制度により景観形成基準等への適合を確認し、助言・指導等を実施。

【令和元年度の届出等の状況】建築物・工作物 178件、広告物 45件

3. 眺望景観の保全

平成31年4月より名古屋城眺望景観保全エリアと景観形成基準を新たに設け、大規模建築物等の届出等の制度により、助言・指導等を実施。

【令和元年度の届出等の状況】建築物 9件

4. 屋外広告物

都市景観形成地区内の屋外広告物及び大規模な屋外広告物について、色彩などの制限を定め、屋外広告物条例による、表示や設置に関する規制と合わせて助言・指導を実施。

【令和元年度の届出等の状況】広告物 45件

○新たな地区の検討（那古野一丁目地区の景観まちづくり）

1. 景観まちづくりの推進

①事業の概要

・四間道を都市景観形成地区に指定したことをきっかけとして、その西側に隣接する那古野一丁目地区が狭い路地や瓦屋根の木造住宅が残る非常に魅力的な地域であることから、景観に関するルール化を見据えたまちづくりを推進する。

②経緯

- ・平成30年度：地元勉強会（5回）
- ・平成31・令和元年度：地元勉強会（6回）・準備会（1回）

③今後の進め方

・勉強会等で検討してきたまちづくりルール案など、検討エリア内の土地・建物所有者に説明しながら、地元主体で運営する推進委員会を立ち上げる。

2. 街並み環境整備事業の推進検討

①事業の概要

・四間道地域全体の魅力向上を図るため、国の補助制度である街並み環境整備事業の制度を活用し、電線地中化や防災、建物の修景などの実現に向け検討する。

②経緯

- ・平成30年10月、四間道都市景観形成地区指定
- ・平成31年4月、四間道都市景観形成地区制度運用開始

③今後の進め方

- ・事業化に向けた庁内調整
- ・事業化に向けた地域調整等

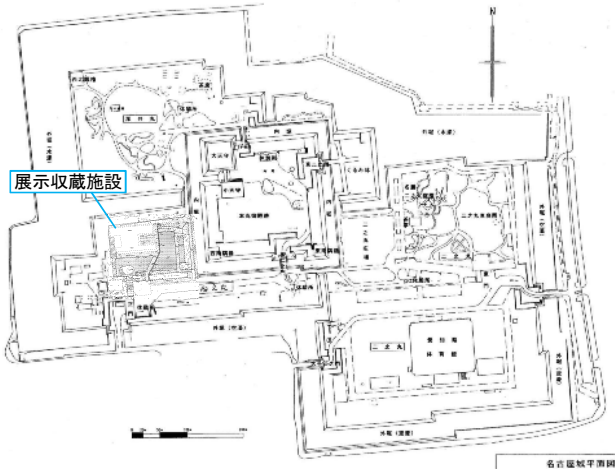
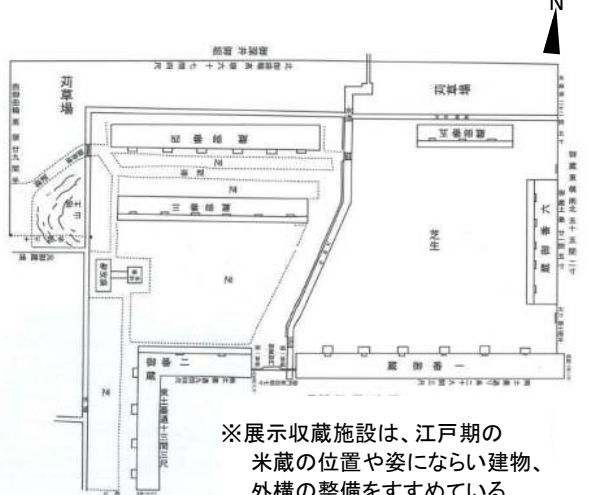
< 検討中のエリア >



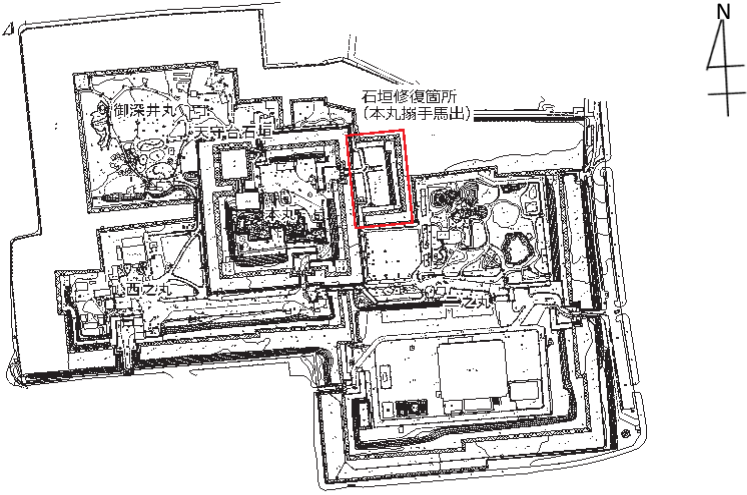
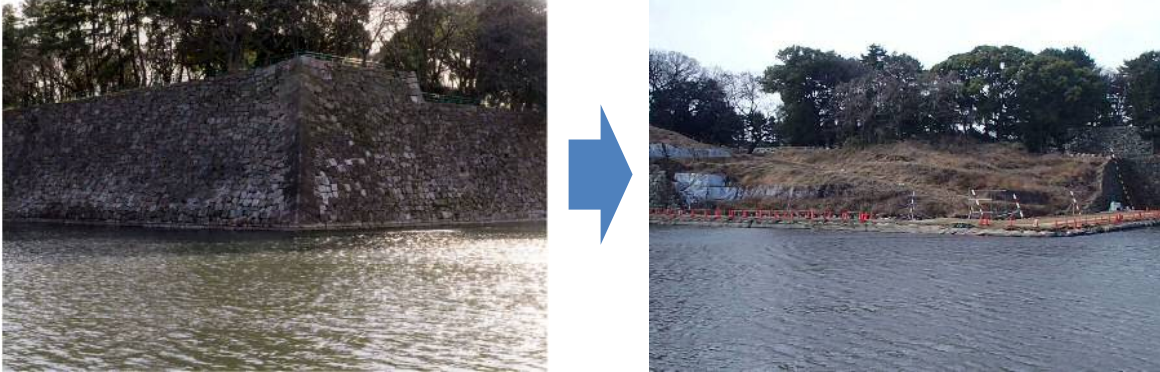
勉強会の様子

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
名古屋城重要文化財等展示収蔵施設の整備			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成25年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	名古屋城本丸御殿障壁画をはじめとした名古屋城の重要文化財等を積極的に市民に公開するための展示・収蔵施設の整備を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で 平成25年度は、名古屋城重要文化財展示収蔵施設整備構想を策定した。 平成26年度は、展示収蔵施設予定地の埋蔵文化財発掘調査を行った。 平成27年度は、展示収蔵施設の基本設計等を行った。 平成28年度は、展示収蔵施設の実設計等を行った。 平成29年度は、展示収蔵施設の建設工事に着手した。 平成30年度は、展示収蔵施設の建設工事を行い、竣工した。 令和元年度は、外構工事に着手したが、調査が必要となり、工事を一時中止している。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	外構の整備については調査、再検討が必要であり、事業完了については未定である。		
状況を示す写真や資料等			
		 ※展示収蔵施設は、江戸期の米蔵の位置や姿にならい建物、外構の整備をすすめている	
城内配置図		御米蔵構図(原図は「金城温古録」所収)	
			
南東から撮影(竣工時)		東から撮影(工事一時中止状況)	

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
名古屋城二之丸庭園の整備			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成25年度～		
支援事業名	歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業		
計画に記載している内容	名勝名古屋城二之丸庭園保存管理計画に基づき、庭園の本格的な保存整備に取り組む。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成25・26年度に石組の崩壊を招いている又は招く樹木の伐採、平成26年度に権現山並びに笹巻山の修理を行った。 平成27年度は権現山山頂の社跡の遺構再現表示と石段の復元整備及び権現山西側の築山修復を行った。 平成28年度は栄螺山の盛土修復及び権現山西側の築山の修復を行った。 平成29年度は北園池の岩組、護岸、中島、築山周辺の修復を行った。 平成30年2月には国指定名勝庭園区域が拡大された。 平成30年度は余芳移築再建予定地周辺の一次造成及び北園池の石組の修理を行った。 令和元年度は北園池の石組の傾倒及び亀裂の修理等を行った。 平成25年度以降、発掘調査現地説明会を実施することで、二の丸庭園の文化的価値や魅力について広く周知し、歴史的風致の維持向上に寄与している。			
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)			
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	名勝名古屋城二之丸庭園の往時の景観を取り戻すため、庭園の修復・保存整備を進める。		
状況を示す写真や資料等			
北園池の石組の修理①			
			
着手前		完了 (令和2年3月)	
北園池の石組の修理②			
			
着手前		完了 (令和2年3月)	
			
現地説明会の開催 令和2年2月22日 参加者26名		二之丸庭園平面図(部分) 施工箇所	

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
名古屋城石垣の整備			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和50年度～		
支援事業名	歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業		
計画に記載している内容	特別史跡名古屋城跡の重要な要素である名古屋城石垣について、修復工事等を実施し、歴史的景観を保全する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
大きな孕みがみられた本丸搦手馬出(からめてうまだし)周辺石垣について平成14年度から継続して修復工事を行っている。平成25年度までは、石垣の取り外しを実施した。平成26,27年度は、根石の調査を実施した。 平成28、29年度は、石垣前面の地盤補強工事として杵工を実施した。 平成25～28年度に、修復現場見学会を開催した。 平成30年度は、平成26年度から行った調査や地盤補強のために中断していた石垣の取り外しを再開し最下段までの取外しを実施した。 令和元年度は石材補修工、仮設通路工、石材調査等を実施し、石垣の積み直しに向けた準備が進んだ。 今後、石垣を適切に積み直すことで、名古屋城の歴史的魅力の向上が図られ、歴史的風致の維持向上に寄与していくことができる。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		積み直す際の工法・工程や石垣の勾配などの修復計画について、関係機関と調整しながら検討を進める。	
状況を示す写真や資料等			
			
石垣整備箇所(本丸搦手馬出)			
			
修復工事前の石垣(平成14年度)		修復工事中の石垣(令和元年度末)	

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
重要文化財「旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判所庁舎」の保存・公開と市政資料館としての活用			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成元年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	重要文化財「旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判所庁舎」を市の公文書館である「名古屋市市政資料館」として活用し、市政・司法・建物に関する資料の展示等を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
公文書の収集、資料の常設展示のほか、企画展やミニコンサートなどのイベントを開催した。 文化のみちにある施設と連携し事業を実施することで、回遊性が高まり各施設の認知度の向上や入館者増加に寄与している。			
●令和元年度入館者		96,841人(令和2年3月末現在)	
●平成30年度入館者		101,446人	
●平成29年度入館者		84,893人	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	これまで以上に費用対効果が高いPR手法の選択のため、より経済的かつ効果的な広報媒体・広報ツールのリサーチ及び活用が必要		
状況を示す写真や資料等			
●企画展 「令和元年こどもの日企画展示」～昔の文字を読んでみよう～ 平成31年4月29日～令和元年5月29日、6月14日～7月17日 入館者19,183名 「夏休み子ども企画展 名古屋市のうつりかわり」 令和元年 7月20日～令和元年 8月31日 入館者 11,340名 「伊勢湾台風の記憶と記録」 令和元年 8月 1日～令和元年 8月27日 入館者7,359名 「午前0時 キスしに来てよ パネル展及び衣裳展」 令和元年11月26日～令和元年12月 6日 入館者 4,299名 「午前0時 キスしに来てよ パネル展」 令和元年12月10日～令和元年12月22日 入館者 5,866名 ●主なイベント 「開館30周年記念イベント 市政資料館まつり」 令和元年10月26日 入館者 1,246名 「歩こう！文化のみち」 令和元年11月3日 入館者 1,691名 「クリスマスコンサート」 令和元年12月15日 入館者 208名			
 「伊勢湾台風の記憶と記録」展 令和元年8月1日～令和元年8月27日 入館者7,359名  夏休み子ども企画展 名古屋市のうつりかわり 令和元年7月20日～令和元年8月31日 入館者11,340名  歩こう！文化のみち 「桜台高校ファッションショー」 令和元年11月3日 入館者1,794名			

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況																												
文化のみち二葉館(名古屋市旧川上貞奴邸)の管理運営			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手																												
事業期間	平成16年度～																														
支援事業名	市単独事業																														
計画に記載している内容	歴史的建造物である文化のみち二葉館の保存・活用を進める。																														
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で																															
川上貞奴が居住した建物を創建当時の姿に移築復元し、文化のみちの拠点施設として平成17年2月8日より一般公開している。文化のみちの情報発信、川上貞奴に関する資料・郷土ゆかりの文学資料の展示、そして企画事業の実施などにより市民文化の振興に寄与している。年3回、施設の無料開放日を設け、施設の利用向上を図っている。文化のみちにある施設と連携し事業を実施することで、回遊性が高まり各施設の認知度の向上や入館者増加に寄与している。																															
【定量的評価】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>入館者数</th> <th>貸室稼働率</th> <th>利用者満足度</th> <th>無料開放日 2月8日</th> <th>7月17日</th> <th>名古屋まつり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>28,252人</td> <td>39%</td> <td>99%</td> <td>1,544人</td> <td>86人</td> <td>1,146人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>32,686人</td> <td>22%</td> <td>98%</td> <td>868人</td> <td>72人</td> <td>849人</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>30,886人</td> <td>32%</td> <td>98%</td> <td>983人</td> <td>367人</td> <td>171人</td> </tr> </tbody> </table>					入館者数	貸室稼働率	利用者満足度	無料開放日 2月8日	7月17日	名古屋まつり	令和元年度	28,252人	39%	99%	1,544人	86人	1,146人	平成30年度	32,686人	22%	98%	868人	72人	849人	平成29年度	30,886人	32%	98%	983人	367人	171人
	入館者数	貸室稼働率	利用者満足度	無料開放日 2月8日	7月17日	名古屋まつり																									
令和元年度	28,252人	39%	99%	1,544人	86人	1,146人																									
平成30年度	32,686人	22%	98%	868人	72人	849人																									
平成29年度	30,886人	32%	98%	983人	367人	171人																									
進捗状況	※計画年次との対応																														
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)																														
	文化のみちの拠点施設として、周辺施設とのさらなる連携が課題である。イベントや広報を他施設と連携して実施するなど、さらに連携を進めていくことが必要である。																														

状況を示す写真や資料等

令和元年度は企画事業を74件実施。
(平成30年度企画事業数89件)



パネル紹介
文化のみち全体の紹介パネルにて、エリア内の歴史的建造物などについて紹介



企画展「姫着物展」
華やかな帯で作った着物を展示
令和元年9月19日～23日
期間中入館者総数 620名



企画事業「ふたば茶屋」
先着100名に抹茶をサービス
(「歩こう!文化のみち」同日企画)
令和元年11月3日
当日入館者数 703名



企画事業 開館記念日「ふたばの日」
名古屋の伝統芸能披露
令和2年2月8日(無料開放日)
当日入館者数 1,544名

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況																																								
文化のみち榑木館の管理運営			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手																																								
事業期間	平成21年度～																																										
支援事業名	市単独事業																																										
計画に記載している内容	歴史的建造物である文化のみち榑木館の保存・活用を進める。																																										
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で																																											
歴史的建造物である文化のみち榑木館を平成21年7月17日から一般公開している。 文化のみちの歴史などに関する展示や、企画事業の実施などにより市民文化の振興に寄与している。 年3回、施設の無料開放日を設け、施設の利用向上を図っている。 文化のみちにある施設と連携し事業を実施することで、回遊性が高まり各施設の認知度の向上や入館者増加に寄与している。 【定量的評価】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成29年度</th> <th>無料開放日</th> <th>2月8日</th> <th>7月17日</th> <th>名古屋まつり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数</td> <td>14,270人</td> <td>16,995人</td> <td>15,770人</td> <td></td> <td>313人</td> <td>82人</td> <td>475人</td> </tr> <tr> <td>貸室稼働率</td> <td>49%</td> <td>31%</td> <td>28%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用者満足度</td> <td>97%</td> <td>97%</td> <td>97%</td> <td></td> <td>503人</td> <td>40人</td> <td>530人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>410人</td> <td>170人</td> <td>100人</td> </tr> </tbody> </table>					令和元年度	平成30年度	平成29年度	無料開放日	2月8日	7月17日	名古屋まつり	入館者数	14,270人	16,995人	15,770人		313人	82人	475人	貸室稼働率	49%	31%	28%					利用者満足度	97%	97%	97%		503人	40人	530人						410人	170人	100人
	令和元年度	平成30年度	平成29年度	無料開放日	2月8日	7月17日	名古屋まつり																																				
入館者数	14,270人	16,995人	15,770人		313人	82人	475人																																				
貸室稼働率	49%	31%	28%																																								
利用者満足度	97%	97%	97%		503人	40人	530人																																				
					410人	170人	100人																																				
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)																																										
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	文化活動の促進により市民文化の振興に寄与する施設として、周辺施設及び地域団体等とのさらなる連携が課題である。イベントや広報を他施設及び地域団体等と連携して実施するなど、さらに連携を進めていくことが必要である。																																										
状況を示す写真や資料等																																											
令和元年度は企画事業を27件実施。 平成30年度企画事業数27件  常設展示 2F 「文化のみち」における近代建築物の保存と活用  企画事業「なごや折り紙建築展」 名古屋の歴史的建造物を紙工作で展示 令和元年4月19日～5月6日 (総入館者数819名)  企画事業「榑木館ハルカルテットコンサート」 開館記念催事として演奏会を実施 令和元年7月15日 当日入館者数 145名  企画事業「百鬼夜行展」 妖怪をモチーフにした夏らしい絵画を展示 令和元年8月3日～18日 期間中総入館者数 519名																																											

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
名古屋市役所本庁舎及び愛知県本庁舎の歴史的価値の維持向上		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成26年度～令和5年度	
支援事業名	市単独事業 ※名古屋市分のみ	
計画に記載している内容	名古屋市役所本庁舎と愛知県庁本庁舎(ともに重要文化財)の並立する景観と両者の歴史的価値の維持向上を図るとともに、庁舎の公開等を行っていく。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
名古屋市役所本庁舎(平成26年12月10日重要文化財指定)の歴史や魅力を広く市民に伝えていくため、平成19年度から実施している庁舎開放イベント(11月3日)を実施し3,200人が参加したほか、小中学校の社会見学などの団体向け庁舎見学の受け入れを行った。 また、令和元年度は閉庁日のガイドツアーを季節ごとに実施し、計365名が参加した。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	継続実施。ガイドツアーの実施については、実績に応じて、開催日及び募集人数を検討。	

状況を示す写真や資料等

●庁舎開放イベント実施結果

開催日 : 令和元年11月3日(祝・日)
 開催時間: 午前9時30分～午後4時00分
 入場者数: 3,200人

(参考)過去3年間の入場者数

平成28年度	3,300人
平成29年度	3,800人
平成30年度	3,100人

●庁舎見学の受け入れ実績

令和元年度	13団体(263名)
-------	------------

(参考)過去3年間の受け入れ実績

平成28年度	39団体(611名)
平成29年度	38団体(496名)
平成30年度	33団体(554名)

●庁舎開放イベントの様子



11月3日 歩こう文化のみち



11月3日 歩こう文化のみち
庁舎開放(正庁)

●令和元年度ガイドツアー実施結果

開催日 : 令和元年5月25日(土)・6月1日(土)
 令和元年9月7日(土)
 令和2年1月19日(日)

開催時間: ①午前10時～
 ②午後1時～

参加者総数: 365名
 ※応募総数502通

●ガイドツアーの様子



項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
栄地区まちづくりプロジェクトの推進(名古屋テレビ塔)			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成22年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	日本初の集約電波塔であり、本市の戦災復興を象徴する登録有形文化財でもある名古屋テレビ塔について、都心の重要な観光施設として活用していくための方策を検討していく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
栄地区のシンボルである名古屋テレビ塔(登録有形文化財)の魅力を発信するため、これまで夜景とプロジェクションマッピングをコラボレーションさせたイベントを季節ごとに内容を変えて実施していたが、耐震性及び内部の機能向上のため、平成31年1月から休館し改修工事を実施。営業再開は令和2年7月頃を予定している。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	展望台等を観光客の利用に供するとともに、おもてなしサービスの強化により、集客の向上を図る。(現在は改修工事のため休館中。)		
状況を示す写真や資料等			
・平成31年1月 名古屋テレビ塔の改修工事・着工 久屋大通公園(北エリア・テレビ塔エリア)整備工事・着工 ・令和 2年7月 名古屋テレビ塔・久屋大通公園(北エリア・テレビ塔エリア)開業			
 			
【久屋大通公園北エリア完成イメージ図】			
【栄地区まちづくりプロジェクトとは】 リニア中央新幹線の開業に向け、名駅地区と栄地区が個性を生かした魅力向上を図るため、栄地区を魅力あるまちへと再生し、持続的に発展させることを目的とした基本方針「栄地区グランドビジョンーさかえ魅力向上方針ー」に基づく取り組み ○栄地区グランドビジョンにおける方針 方針1 公共空間の再生 「にぎわいと魅力にあふれた世界に誇れるシンボル空間の形成」 方針2 民間再開発の促進 「機能更新が進み活気あふれる都市空間の形成」 方針3 界隈性の充実 「個性を持った多様で魅力的な界隈の創出」			

評価軸③-09

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
歴史的町並み保存事業(白壁・主税・榑木地区)			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和60年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	白壁・主税・榑木地区において、町並み保存地区及び伝統的建造物の指定を行うとともに、保存地区内の建造物の修理・修景等に対する技術的支援及び経済的支援(助成)を継続して行う。また、この地区の特徴である門塀や緑と調和するサイン、案内板、解説板等の整備を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
伝統的な建造物は修理基準に、伝統的建造物以外の建造物は修景基準にそれぞれ基づいた工事に伴う費用の一部を助成し、町並みを維持・保全して良好な景観を守っている。令和元年度は2件の助成を行い、歴史的景観の維持・継承を図ることで、歴史的風致の維持向上に寄与している。 あわせて、保存地区において、建築行為等を行おうとするものに対し、届出を要請し、この際に専門的・技術的な指導・助言を行った。指導・助言件数は8件。 また、新たに伝統的建造物の指定を1件追加した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	保存地区内の町並みの維持・保全のため、今後も経済的・技術的支援を実施する。		
状況を示す写真や資料等			
◆白壁・主税・榑木町並み保存地区			
江戸時代の武家屋敷の地割を残しており、門・塀と緑樹からなる屋敷景観と戦前の優れた近代建築が残る。			
【補助件数】		【指導・助言件数(届出件数)】	
	令和元年度	平成30年度	平成29年度
伝統的建造物の修理	2	1	1
伝統的建造物以外の建造物の修景	0	0	0
必要物件の整備	0	0	0
計	2	1	1
	令和元年度	平成30年度	平成29年度
伝統的建造物の修理	3	1	1
伝統的建造物以外の建造物の修景	1	0	0
必要物件の整備	0	0	0
その他の建築行為	4	5	6
計	8	6	7
○令和元年度 町並み保存補助事業			
門・塀の修理工事(漆喰補修及び板張替え等)			
			
修理前		修理後	
○令和元年度 伝統的建造物の新規追加			
料亭か茂免 土蔵			
			
土蔵西側外観		土蔵小屋組と棟札	

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
歴史的町並み保存事業(四間道地区)		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 昭和61年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 四間道地区において、町並み保存地区及び伝統的建造物の指定を行うとともに、保存地区内の建造物の修理・修景等に対する技術的支援及び経済的支援(助成)を継続して行う。また、地区の歴史的環境に配慮した道路環境整備を実施するとともに、サイン、案内板、解説板等の整備を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

伝統的な建造物は修理基準に、伝統的建造物以外の建造物は修景基準にそれぞれ基づいた工事に伴う費用の一部を助成し、町並みを維持・保全して良好な景観を守っている。令和元年度は1件の助成を行い、歴史的景観の維持・継承を図ることで、歴史的風致の維持向上に寄与している。

あわせて、保存地区において、建築行為等を行おうとするものに対し、届出を要請し、この際に専門的・技術的な指導・助言を行った。指導・助言件数は1件。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	保存地区内の町並みの維持・保全のため、今後も経済的・技術的支援を実施する。

状況を示す写真や資料等

◆四間道町並み保存地区

慶長15年に始まった清州越しにとまってつくられた商人町で、土蔵群と町家が堀川の水運を利用して隆盛を誇った清州越し商人の栄華を今に伝える。

【補助件数】

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	累計(昭和60年度～)
伝統的建造物の修理	1	0	3	61
伝統的建造物以外の建造物の修景	0	2	0	15
必要物件の整備	0	0	0	6
合計	1	2	3	82

○令和元年度の町並み保存補助事業

※右近土蔵修理(雨樋取替)



修理前



修理後

【指導・助言件数(届出件数)】

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
伝統的建造物の修理	1	0	1
伝統的建造物以外の建造物の修景	0	2	0
必要物件の整備	0	0	0
その他の建築行為	0	0	2
計	1	2	3

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
徳川園の管理運営			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成16年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	歴史文化拠点として、尾張藩二代藩主光友の隠居地を起源とする徳川園を良好に管理運営し、近世武家文化を国内外に発信していく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
各年度を通して、季節の風情を感じる催事や徳川家を中心とした歴史にまつわる催事を企画し、企画によっては隣接する蓬左文庫、徳川美術館と連携してバランスのとれた行事の実施に取り組んできた。 また、6月の徳川園山車揃えでは、名古屋城下の華やかな祭りを再現するなど、歴史的風致の維持向上に寄与している。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	今後も、来園者に城下の歴史文化を楽しみながら感じてもらえる企画を実施していく。		
状況を示す写真や資料等			
令和元年度は企画事業10件実施。季節ごとにイベントを企画している。令和元年度の入園者数は330,850人。			
<u>ちびっこ集まれ！忍者サムライ修行</u>  こどもの日の特別企画として日本殺陣道協会の協力で忍者サムライ修行を開催。刀や手裏剣を使っの体験型のイベントとなった。60組の親子が参加した。(5/5)		<u>山車揃え</u>  毎年6月第一日曜日に東区の筒井町・出来町天王祭に曳き出される5輦の山車が勢ぞろいして、競演を繰り広げる。令和元年は6/2に徳川美術館前広場に集まった約4,000人の観衆を魅了した。	
<u>武家装束展</u>  甲冑、武士装束、大名道具の展示。本物の甲冑の試着会実施。期間中の入園者は4,086人。甲冑試着は53人が参加。(10/3～6)		<u>流し雛</u>  流し雛は現在の雛飾りの原型とされ、源氏物語にもその記述が残っている。徳川美術館の雛飾りの時期と合わせ園内龍仙湖に再現した。150組の親子が参加。(2/23)	

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
蓬左文庫の保存と公開活用			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成16年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	尾張徳川家に伝来した貴重な書籍や絵図類が収蔵・展示されている蓬左文庫の保存と公開活用を積極的に進める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
古典籍文庫としての閲覧公開活動を重視しつつ、徳川美術館と連携し尾張徳川家の大名文化を分かりやすく紹介する展示を開催した。また、蔵書の調査研究の成果をもとに講演会・講座などの催事を実施した。活動の一部は、愛知周辺の大学研究者を中心とする「蓬左文庫典籍研究会」との共同調査研究へと発展しており、その成果を広報誌「蓬左」で紹介した。2回の講演会・シンポジウムには、地元の研究者や歴史愛好家に加え、関東・関西の研究者が参加し、活発な意見が交わされた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	同じ敷地内にある徳川美術館・徳川園と日常的に情報交換し、相互の連携を深める。		
状況を示す写真や資料等			
1. 閲覧室 閲覧室利用者数 1,568人 閲覧件数 1,373件(市内 529件 県内 370件 県外 474件) 閲覧冊数 13,541冊 参考質問 198件 2. 展覧会 (1) 特別展 ① 夏季特別展「合戦図 ―もののふたちの勇姿を描く―」 令和元年 7月27日(土)～ 9月8日(日) 観覧者数 28,669人 ② 秋季特別展「殿さまとやきものー尾張徳川家の名品ー」 令和元年 9月15日(日)～11月10日(日) 観覧者数 34,012人 (2) 企画展 ① 「雅を伝えるー宮廷と文化ー」 平成31年 4月14日(日)～6月2日(日) 観覧者数 58,820人 (1日平均1,337人) ② 「裂の美」 令和元年6月8日(土)～7月21日(日) 観覧者数 22,298人 (1日平均587人) ③ 「奏でるー楽器と調べー」 令和元年11月16日(土)～12月15日(日)【前期】、 令和2年 1月 4日(土)～ 1月31日(金)【後期】 観覧者数 32,374人 (1日平均647人) ④ 「いつだって Kawaii 大好き」 令和2年2月8日(土)～2月28日(金) 観覧者数 11,079人 (1日平均616人) 3. 講演会・講座 ① 講演会「こんなにすごい！尾張藩の古代史研究ー藩主・藩士の学びの系譜ー」 令和元年 10月31日 参加者 150人 ② 講座「青窓紀聞がおもしろい！」 令和元年 11月28日 参加者 80人 ■ 共催(蓬左文庫典籍研究会) ① 講演会「江戸時代における古代典籍の伝来ー政事要略を中心にー」 令和元年 6月30日 参加者 41人 ② シンポジウム「蓬左文庫本『日次記』をめぐる公家と武家Ⅱ」 令和2年 2月 1日 参加者 35人 4. 催事 ① 「第14回桜二胡音楽会2019」 平成31年4月 7日(日) 参加者 2,500人 ② 「徳川園山車揃え」 令和元年6月 2日(日) 参加者 4,000人 ③ 「歩こう！文化のみち」(スタンプラリー) 令和元年11月 3日(日) 参加者 22,091人 ④ 「蓬左文庫古書市」 令和元年10月26日(土)～11月 4日(月) 参加者 1,349人  夏季特別展チラシ  企画展チラシ  講演会会場風景  古書市会場風景			

評価軸③-13

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
堀川の総合整備			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和61年度～		
支援事業名	防災・安全交付金(流域治水対策河川事業)		
計画に記載している内容	堀川では堀川圏域河川整備計画に基づく治水整備を進めているが、堀川とその周辺の歴史・文化資源、まちづくり、市民団体の活動など、堀川をとりまく様々な資産を活かし、周辺のまちづくりを考慮した河川整備に引き続き取り組んでいく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
堀川圏域河川整備計画に基づく治水整備として、護岸整備および河道掘削を実施することにより、沿川の歴史的資産やまちづくりの基盤となる堀川の周辺環境を洪水被害から守る。 令和元年度 護岸整備延長 約0.6km (見込み数字) 令和元年度 河道掘削量 約4千m3 (見込み数字)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		河川整備工事には時間を要するが着実な事業進捗を図っていく。 また、水辺空間を利活用することでにぎわいづくりを進める。	

状況を示す写真や資料等

【整備例】(伝馬橋上流の護岸工事)

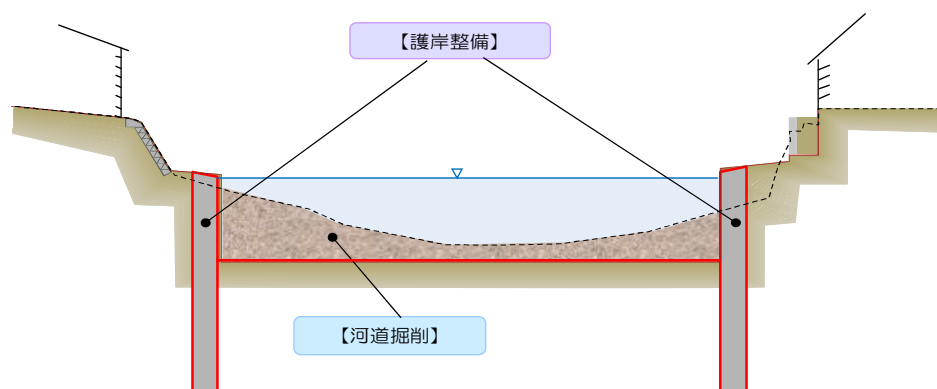


工 事 前



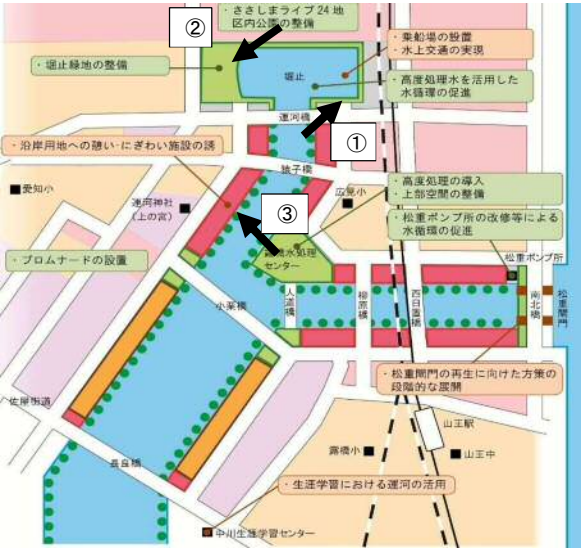
工 事 後

【整備イメージ】



評価軸③-14

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況																
中川運河の再生			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手																
事業期間	平成24年度～（堀止緑地の整備は令和3年度までを予定）																		
支援事業名	防災・安全交付金（港湾改修事業、緑地等施設整備事業）※堀止緑地の整備について																		
計画に記載している内容	名古屋の暮らしとモノづくりの発展を下支えしてきた中川運河において、堀止緑地の整備や護岸改良、松重閘門の再生などに取り組む。																		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で																			
① 堀止緑地の整備（令和3年度供用予定） 緑地の整備によって緑豊かな空間の創出が図られます。 平成30年度 緑地整備（南側通路舗装L=209m 転落防止柵L=177m）／令和元年度 緑地整備（既設構造物撤去、整地等） ② 護岸改良 老朽化した護岸の改良によって防災機能の強化が図られます。 平成30年度 護岸改良工事（本体工・上部工L=112m、防食工L=約80m）／令和元年度 護岸改良工事（防食工L=約90m）																			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）																	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		護岸改良には多額の費用が必要のため時間を要するが、着実な事業進捗を図っていく																	
状況を示す写真や資料等																			
①堀止緑地 整備中の部分  ③護岸改良  ②堀止緑地 一部供用済の部分   凡例 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"><沿岸用地の将来の土地利用></th> <th colspan="2"><背後地の現況の土地利用></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>にぎわい系</td> <td>にぎわい・産業系</td> <td>にぎわい系</td> <td>産業系</td> </tr> <tr> <td>産業系</td> <td>緑地系</td> <td>住居系</td> <td>緑地系</td> </tr> <tr> <td>プロムナード</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				<沿岸用地の将来の土地利用>		<背後地の現況の土地利用>		にぎわい系	にぎわい・産業系	にぎわい系	産業系	産業系	緑地系	住居系	緑地系	プロムナード			
<沿岸用地の将来の土地利用>		<背後地の現況の土地利用>																	
にぎわい系	にぎわい・産業系	にぎわい系	産業系																
産業系	緑地系	住居系	緑地系																
プロムナード																			

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
栄地区まちづくりプロジェクトの推進(久屋大通公園)		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成26年度～

支援事業名 国庫補助事業(社会資本整備総合交付金事業(都市公園事業))及び市単独事業

計画に記載している内容 大胆な戦災復興計画により形成された久屋大通公園において、都心のシンボル空間にふさわしい公共空間の整備や、沿道との一体化を図る空間形成等を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

久屋大通の再生にあたり、北エリア・テレビ塔エリアでは、改正都市公園法により創設されたPark-PFI制度を活用した久屋大通公園(北エリア・テレビ塔エリア)整備運営事業者を進めており令和元年度は、翌年度の供用開始に向けて整備運営事業者により工事が進められている。また、南エリアでは、栄バスターミナル(噴水南のりば)跡地暫定活用事業により令和2年2月に新たな広場(ミツコシマエヒロバス)を供用開始したとともに、久屋大通再生有識者懇談会より、「久屋大通のあり方(南エリア部分)」について、提言を受けた。

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
□計画どおり進捗していない

北エリア・テレビ塔エリアの再生については、令和2年秋頃の供用開始に向けて、整備運営事業者との調整をすすめていく。南エリアについては、地元をはじめとする関係者との意見交換をすすめる。

状況を示す写真や資料等

■久屋大通再生有識者懇談会等を開催

【開催日】第10回久屋大通再生有識者懇談会:令和元年11月11日

久屋大通のあり方(南エリア部分)の提言受領:令和2年3月26日

■久屋大通公園(北エリア・テレビ塔エリア)整備運営事業 ※事業者提案内容

●整備のポイント

- テレビ塔を中心とした明快なビスタラインを形成
- 健全な樹木環境の確保
- 合計約1万㎡におよぶ広場の整備
- 誰もが利用しやすいバリアフリー環境の確保
- 両側町に見立てた新しい街並みによる賑わいの波及

●スケジュール

2019年1月 工事着手
2020年7月頃 グランドオープン

●整備運営事業者
代表構成団体 三井不動産株式会社

往來を促進する上下軸の創出

学びの森ゾーン

多世代が学びや刺激を得られ「ものづくり名古屋」を支える、大人と子どもたちを育む空間へ

アーバンリゾートの森ゾーン

美しい森の中の木陰にあるデッキに沿いに、地元密着型のショップや飲食店が広がる都市型リゾーツ空間へ

コミュニケーションゾーン

青空の下、語らいのひと時やラングを介したコミュニケーションなど、交流・親交を誘発する空間へ

シンボルゾーン

国内外からの人を惹きつける「ものづくり名古屋」、「日本の価値」をプレゼンテーションする空間へ

北エリア【都会の安らぎ空間】

テレビ塔エリア【観光・交流空間】

■栄バスターミナル(噴水南のりば)跡地暫定活用事業 ※事業者提案内容

(広場の活用イメージ)

●事業のテーマ

- 東京オリンピックなどと連動したイベント、発見や体験と出会えるイベントを実施・誘致
- BBQレストラン、カフェ、コンビニなどのショップにより、朝昼夜を通して楽しめる都心のサードプレイスを創出

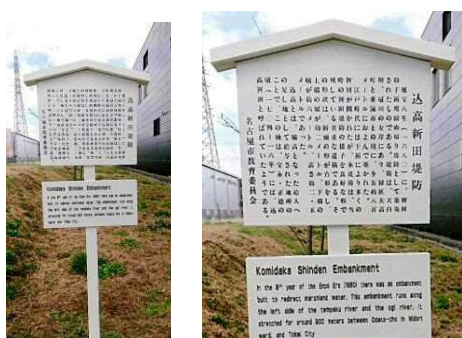
●スケジュール

○2019年7月 工事着手
○2020年2月 供用開始

●整備運営事業者
代表法人 株式会社中日新聞社

評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況																												
史跡名勝標札、史跡散策路案内板等設置事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手																												
事業期間	昭和39年度～																														
支援事業名	市単独事業																														
計画に記載している内容	史跡名勝標札、史跡散策路案内板などの設置事業を行うとともに、こうした歴史関係の案内板を活用し、より身近な歴史に親しむ環境を整える。																														
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で																															
史跡や名勝などの所在地にその由緒などを案内する標札として「史跡名勝標札」を市内に307基(工事などで一時撤去中の標札を含む)設置している。令和元年度は、標札の新設や説明文の修正や補修、日本遺産に登録された有松地区の標札を新しくした。 また、各史跡等を連絡させた散策路コースを設定し、市内80コース(1区あたり3～6コース)の各起点にイラストでコース全体や史跡を紹介した「史跡散策路」案内板を、コース途中には誘導標識を設置し、文化財保護意識の普及啓発やウォーキングイベント等での活用を図ったほか、案内板については補修等を実施した。																															
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)																													
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		史跡名勝標札の新設のほか、設置後10年以上経過し、文字や塗装等の劣化が見られる史跡名勝標札や案内板の補修も、計画的に進めている。																													
状況を示す写真や資料等																															
【案内板新設等件数】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新設</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>再設置</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>補修・訂正</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>作り直し(有松地区)</td> <td>8</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>完全撤去</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>設置累計</td> <td>307</td> <td>304</td> <td>302</td> </tr> </tbody> </table> 史跡名勝標札の新設(緑区大高町) 				種別	令和元年度	平成30年度	平成29年度	新設	3	2	3	再設置	2	1	1	補修・訂正	15	9	15	作り直し(有松地区)	8	—	—	完全撤去	0	0	0	設置累計	307	304	302
種別	令和元年度	平成30年度	平成29年度																												
新設	3	2	3																												
再設置	2	1	1																												
補修・訂正	15	9	15																												
作り直し(有松地区)	8	—	—																												
完全撤去	0	0	0																												
設置累計	307	304	302																												
「史跡名勝標札」の補修  【施工前】   【施工後】 文字板を取り換える。																															

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
歴史的建造物の登録・認定		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成23年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 名古屋市都市景観条例に基づき、市内に残る身近な歴史的建造物を地域建造物資産として登録・認定するとともに、その保存活用に向けた技術的支援、経済的支援に取り組む。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市内に残る身近な歴史的建造物を地域建造物資産として登録・認定し、登録資産は計201件、認定資産は計79件(ともに累計)となった。
登録・認定件数は順調に増えており、身近な歴史的建造物を大切にするという意識も生まれ、歴史的風致の維持向上に寄与している。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
□計画どおり進捗していない

名古屋市総合計画2018の目標である「平成30年度に登録・認定累計250件」は達成したが、今後も、市民、なごや歴まちびと、関係機関等と連携し、身近な歴史的建造物の情報収集体制を強化していく必要がある。

状況を示す写真や資料等

■登録及び認定件数

年度	登録	認定	合計
H23	50	35	85
H24	43	16	59
H25	37	6	43
H26	8	4	12
H27	9	0	9
H28	14	0	14
H29	14	7	21
H30	20	1	21
R1	6	10	16
合計	201	79	280
(うち登録→認定)	(33)		(33)
(うち抹消)	(4)	(2)	(6)

■技術的支援の実績件数

年度	件数
H23	6
H24	9
H25	6
H26	5
H27	6
H28	9
H29	12
H30	4
R1	2
合計	59

■経済的支援の実績件数

年度	件数
H23	2
H24	1
H25	4
H26	3
H27	1
H28	2
H29	0
H30	1
R1	3
合計	17

■登録・認定地域建造物資産(令和元年度登録・認定物件(一部))



登録 第196号 茶房楽座
(西区那古野)



登録 第198号 菊の屋はなれ
(中村区竹橋町)



認定 第70号 崇覚寺
(中区橋)

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
なごや歴まちびとの派遣		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成23年度～	
支援事業名	市単独事業	
計画に記載している内容	地域建造物資産に登録・認定された歴史的建造物の所有者からの申請に基づき、名古屋歴史的建造物保存活用推進員(なごや歴まちびと)が保存・活用に関する技術的支援を行う。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
登録地域建造物資産等の歴史的建造物の所有者に対して、名古屋歴史的建造物保存活用推進員(なごや歴まちびと)の派遣を行い、所有者の相談に応えることで歴史的建造物の保存に繋がっており、歴史的風致の維持向上に寄与している。		
【歴まちびと登録人数】令和元年度現在:62人 【派遣件数】令和元年度:2件		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	歴史的建造物所有者からの様々な相談への対応を一層強化するため、なごや歴まちびとの追加養成を検討している。	

状況を示す写真や資料等

■派遣制度の仕組み

なごや歴まちびと派遣制度



■派遣実績

年度	件数
H23	6
H24	9
H25	6
H26	5
H27	6
H28	7
H29	12
H30	4
R1	2
合計	57

■過去の主な相談内容

- ・屋根、土蔵、母屋、門、塀の補修方法について
- ・活用に向けた修理計画について
- ・耐震診断について
- ・活用検討のための調査、間取り図作成について

など

■建物調査・相談の様子(技術的支援)



令和元年12月10日
個人住宅 永田家



令和2年3月19日
店舗・住宅 笠寺薬局

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
文化のみちの推進			☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	平成11年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	名古屋城から徳川園に至る「文化のみち」エリアにおいて、拠点施設の管理運営、歴史的建造物の保存・活用を行うとともに、「歩こう！文化のみち」などの各種イベントを開催する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
文化のみち施設(文化のみち二葉館・文化のみち榎木館・旧豊田佐助邸・旧春田鉄次郎邸)の活用・管理を行うとともに、「歩こう！文化のみち」などの歴史的建造物を活用したイベントを開催した。 文化のみちにある施設が連携し事業を実施することで、回遊性が高まり各施設の認知度の向上や入館者増加に繋がり歴史的風致の維持向上に寄与している。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		文化のみち施設による個々の企画や発信だけでなく、連携した取組みを推進していく必要がある。	



文化のまち二葉館



文化のまち榎木館



旧豊田佐助邸



旧春田鉄次郎邸



文化のまちエリア

【実施イベント】



連携事業
「第20回歩こう！文化のまち」
令和元年11月3日
(参加者数:22,091人)



連携事業
「文化のまち雑学スタンプラリー」
令和2年2月8日～3月8日
参加者:延べ人4,942人

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
指定文化財(建造物・史跡等)の保存修理事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和47年度～		
支援事業名	市単独事業 ※国・愛知県指定文化財は、文化財保存事業費関係国庫補助・愛知県文化財保存事業費		
計画に記載している内容	指定文化財であるお寺、神社、個人住宅などの歴史的建造物や史跡・名勝といった地域の歴史遺産の保存修理や管理に要する経費について、補助金を交付する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
名古屋市指定文化財等の保存管理・保存継承のために補助金を交付することで、地域の貴重な文化財の保存が図られ、歴史的風致の維持向上に寄与している。 (令和元年度市指定文化財等の保存修理事業として6件補助を実施)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	市の補助金だけでは十分な対応が難しいことから、国の補助事業も有効に活用していく。		

状況を示す写真や資料等

○建中寺本堂(東区)大屋根修理

<修理中>



<修理後>



項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
まちづくり協議会等による地域まちづくりへの支援			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成24年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	地域で活動する多様な主体(住民、自治会、NPO、商店街、企業、行政等)が集まり、まちの将来像を話し合うまちづくり協議会等を設置し、その実現に向けた方針をまとめたまちづくり構想を作成したり、地域の魅力向上や課題対応などの取り組みを主体的にすすめていく「地域まちづくり」を支援していく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
以下の支援を行い、まちづくり構想づくりとその実践を推進している。 平成29年度サポート制度活用団体 9団体 平成30年度サポート制度活用団体 9団体 令和元年度サポート制度活用団体 6団体			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	地域まちづくりに取組むまちづくり団体が増加傾向にあり、今後も支援を実施していく。 【地域まちづくり活動団体登録:平成29年度 19団体、平成30年度 24団体、令和元年度、27団体】(平成29年度から登録認定制度運用開始)		
状況を示す写真や資料等			
 <<NPO法人久屋大通発展会>> まちづくり構想を作成するため関係者等が集まって企画委員会を実施 (写真は令和元年11月25日)			
 <<平針南学区自治会>> まちづくり構想に位置付ける地域の居場所のニーズを把握するための社会実験の実施 (写真は令和元年12月7日)			

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
名古屋城本丸御殿障壁画復元模写			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成4年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	国の重要文化財に指定されている名古屋城旧本丸御殿障壁画等を参考に、400年前の鮮やかな色を蘇らせるべく、描かれた当時の状態を再現する「復元模写」を制作し、本丸御殿復元時に御殿内に取り付けて展示する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成25年度は、上洛殿上段之間の床壁貼付絵や襖絵、天井板絵など33面を制作した。 平成26年度は、上洛殿西入側の壁貼付絵や襖絵、上段之間の天井板絵など38面を制作した。 平成27年度は、上洛殿三之間の壁貼付絵や襖絵、上段之間の天井板絵など43面を制作した。 平成28年度は、鷺之廊下の壁貼付絵、上洛殿上段之間の天井板絵など44面を制作した。 平成29年度は、上洛殿松之間の襖絵や上洛殿三之間の天井板絵など48面を制作した。 平成30年度は、上洛殿松之間の壁貼付絵や上洛殿一之間の天井板絵など35面を制作した。 令和元年度は、上御膳所御上段の壁貼付絵や上洛殿一之間の天井板絵など52面を制作した。 制作した障壁画を本丸御殿に展示し、名古屋城の歴史的魅力的の向上が図られ、歴史的風致の維持向上に寄与している。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	史実に忠実な障壁画復元模写の制作のため、重要文化財障壁画の熟覧等を行いながら事業を進める。		
状況を示す写真や資料等			
【令和元年度 制作画面(一部)】			
			
上洛殿松之間北側障子腰貼付			
			
上洛殿一之間天井板絵			
			
作業風景			
令和元年度末 進捗率 57% (1,325面中757面完了)			

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
名古屋城本丸御殿障壁画保存修理			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和61年度～		
支援事業名	国宝重要文化財等保存整備費補助金		
計画に記載している内容	国の重要文化財に指定されている名古屋城旧本丸御殿障壁画について、絵の具の剥落、虫害、下地の傷みなど損傷を生じているものを順次修理し、保存・継承を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で 平成25年度は、上洛殿の天井板絵30面の保存修理を行った。 平成26年度は、上洛殿の天井板絵29面の保存修理を行った。 平成27年度は、上洛殿の天井板絵28面の保存修理、表書院等の襖絵16面の点検修理を行った。 平成28年度は、上洛殿の天井板絵28面の保存修理、上洛殿の襖絵8面、玄関等の杉戸絵8面の点検修理を行った。 平成29年度は、上洛殿の天井板絵26面の保存修理、玄関の障子腰貼付絵など18面の点検修理を行った。 平成30年度は、上洛殿の天井板絵25面の保存修理、上洛殿や表書院の襖絵など16面の点検修理を行った。 令和元年度は、上洛殿の天井板絵29面の保存修理、黒木書院や玄関の襖絵15面の点検修理を行った。 重要文化財である名古屋城本丸御殿障壁画の保存修理を行うことで、貴重な文化財の保存・継承することにより、名古屋城の歴史的魅力の向上が図られ、歴史的風致の維持向上に寄与している。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	今後の展示・貸し出しの予定を勘案し、計画的に修理を行う。		
状況を示す写真や資料等			
【令和元年度 修理画面(一部)】			
			
上洛殿入側天井板絵(修理前)		上洛殿入側天井板絵(修理後)	
			
玄関一之間襖絵 竹林豹虎図(点検)		玄関二之間襖絵 竹林豹虎図(点検)	

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
郷土ゆかりの文学資料室			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成17年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	郷土ゆかりの文学資料が時代とともに散逸することを防ぐため、文化のみち二葉館(旧川上貞奴邸)の一部を活用して、郷土ゆかりの文学資料の保管・展示を行うことにより、市民文化の振興に寄与する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
○市民や文学関係者が保有する文学資料について、その保存状態や歴史的価値を調査した。 〈平成30年度〉亀山巖、「あじくりげ」寄贈資料(86点)、宗田理氏、城山三郎氏、中部ペンクラブ寄贈資料(116点) 〈令和元年度〉永楽屋東四郎関係資料(5点)、稲垣喜代志氏関係資料(45点)、名古屋豆本(62点)、岡田・藤森夫婦資料(78点)蔵書(77点) ○収蔵資料や折々のテーマに基づいた企画展及び関連催事の開催し、市民等の歴史的風致に対する認識の向上に寄与した。 〈平成30年度〉稲葉京子展、宗田理展、稲垣喜代志展、亀山巖展 〈令和元年度〉春日井建展、児童文学リバイバル展、名古屋・モダニズム詩展、郷土ゆかりの文学資料収蔵品展			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	文学資料の調査・保存について今後も継続実施するとともに、さらに多くの方々に施設に訪れていただき、興味を持っていただけるよう、今後もインターネットを活用するなどより効果的な周知方法を検討していく。		
状況を示す写真や資料等			
○文学資料(寄贈品)の調査・保存 〈平成30年度〉 ・亀山巖、「あじくりげ」資料…絵画、貴重本はじめ86点 ・宗田理氏、城山三郎氏、中部ペンクラブ寄贈資料…冊子はじめ116点 〈令和元年度〉 ・永楽屋東四郎関係資料…5点 ・稲垣喜代志氏関係資料…45点 ・名古屋豆本(欠号分の通巻の前半出版のもの)…65点 ・岡田、藤森夫妻の資料…155点			
			
		寄贈された資料	
○文学関係企画展 〈平成30年度〉 ・「稲葉京子展 花と想念の歌人」展 5月23日～6月24日 期間中入場者 2,689名 ・「ぼくらシリーズ」宗田理作品を読む!」展 8月1日～9月2日 期間中入場者 1,891名 ・「反骨の編集者 稲垣喜代志の眼差し」展 10月11日～11月18日 期間中入場者 5,312名 ・「亀山巖と名古屋豆本」展 2月6日～3月10日 期間中入場者 4,270名 〈令和元年度〉 ・「没後15年春日井建展」 5月21日～6月30日 期間中入場者3,270人 ・「児童文学リバイバル展 名古屋・愛知の昔話」 8月1日～8月31日 期間中入場者1,515人 ・「名古屋・モダニズム詩展」 10月10日～11月10日 期間中入場者5,022人 ・「開館15周年郷土ゆかりの文学資料収蔵品展」 2月5日～3月29日			
			
企画展「没後15周年春日井建」展の様子		「開館15周年郷土ゆかりの文学資料収蔵品展」展示資料	

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
水上交通ネットワークの検討			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成23年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	中川運河、堀川及び名古屋港を連絡し、熱田、名古屋城及びささしまライブ24などの歴史資産や拠点をめぐる新たな水上交通網の実現を目指す。熱田の宮の渡しと桑名の七里の渡しを結ぶ東海道唯一の海路である七里の渡しの復活に向けて、民産学官の観光舟運に関する情報共有と連携強化を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(令和元年度) 中川運河水上交通定期運航・モニタリング調査を引き続き実施。上半期のアンケート調査(回答者数3,259、回収率39.4%)では、満足度について9割以上「よかった」「まあよかった」と回答			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		PR強化や企画商品の造成などにより利用者数の底上げを図りながら、引き続き運航を継続実施する	
状況を示す写真や資料等			

【運航ルート】



項目		評価対象年度	令和元年度																		
			現在の状況																		
「ものづくり文化の道」推進事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手																		
事業期間	平成13年度～																				
支援事業名	市単独事業																				
計画に記載している内容	名古屋駅北東に位置する西区の南部地域を「ものづくり文化の道」とし、ものづくりを中心としたこの地域の魅力を産業観光、産業振興、商店街の活性化といった産業面のみならず、歴史的な価値を有する建造物や町並みの保存・活用を図りながら高め、その魅力を地域の内外に発信していく。																				
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で																					
●当該地域の「ものづくり文化」に触れてもらうために、体験や展示が楽しめる「ものづくり文化の館」を開催した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催場所</th> <th>日時</th> <th>体験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>円頓寺七まつり</td> <td>令和元年8月3、4日(土、日) 午後2時30分～午後7時 ※3日(土)は午後6時まで</td> <td>200人</td> </tr> <tr> <td>西区民おまつり(中止)</td> <td>令和元年10月13日(日) 午前10時～午後3時(予定)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>名古屋城</td> <td>令和元年11月30日(土) 午前10時～午後3時</td> <td>143人</td> </tr> </tbody> </table>		開催場所	日時	体験者数	円頓寺七まつり	令和元年8月3、4日(土、日) 午後2時30分～午後7時 ※3日(土)は午後6時まで	200人	西区民おまつり(中止)	令和元年10月13日(日) 午前10時～午後3時(予定)	-	名古屋城	令和元年11月30日(土) 午前10時～午後3時	143人	●当該地域の魅力を感じてもらうために、チェックポイントを巡るウォーキングイベントを実施した。また、名古屋城をゴールに設定し、同日に名古屋城にて「ものづくり文化の館」を実施することで相互の盛り上げを図った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>日時</th> <th>コース</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年11月30日(土) 午前10時～正午</td> <td>集合:ナゴノスペース 解散:名古屋城</td> <td>183人</td> </tr> </tbody> </table>		日時	コース	参加者数	令和元年11月30日(土) 午前10時～正午	集合:ナゴノスペース 解散:名古屋城	183人
開催場所	日時	体験者数																			
円頓寺七まつり	令和元年8月3、4日(土、日) 午後2時30分～午後7時 ※3日(土)は午後6時まで	200人																			
西区民おまつり(中止)	令和元年10月13日(日) 午前10時～午後3時(予定)	-																			
名古屋城	令和元年11月30日(土) 午前10時～午後3時	143人																			
日時	コース	参加者数																			
令和元年11月30日(土) 午前10時～正午	集合:ナゴノスペース 解散:名古屋城	183人																			
●当該地域の魅力スポット群を「ナゴやおもしろード」と命名し、Instagramを活用した魅力発信事業を実施した。フォロワー数の多いインスタグラマーに「ナゴやおもしろード」を観光してもらい、その様子を「#ナゴやおもしろード」のハッシュタグを付けて投稿し、PRを行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施期間</th> <th>参加インスタグラマー</th> <th>投稿数</th> <th>リアクション数</th> <th>リーチ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年8月1日～ 令和2年1月31日</td> <td>12人</td> <td>44件</td> <td>83,807件 (いいね、コメント総数)</td> <td>約1,250,000件 (総閲覧数)</td> </tr> </tbody> </table>				実施期間	参加インスタグラマー	投稿数	リアクション数	リーチ数	令和元年8月1日～ 令和2年1月31日	12人	44件	83,807件 (いいね、コメント総数)	約1,250,000件 (総閲覧数)								
実施期間	参加インスタグラマー	投稿数	リアクション数	リーチ数																	
令和元年8月1日～ 令和2年1月31日	12人	44件	83,807件 (いいね、コメント総数)	約1,250,000件 (総閲覧数)																	
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)																			
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		今後も事業を継続し、この地域の盛上げや魅力発信を行い、経常的に地域を訪れる人を増やしていくことが課題である。																			
状況を示す写真や資料等																					

ものづくり文化の館

・実演



・展示



・体験



インスタグラマーによる投稿写真

・五条橋



・金刀比羅神社



・商店街金シャチ



・四間道



・信長像

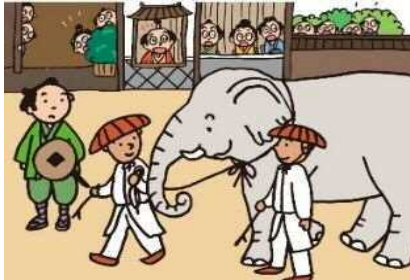


・名古屋駅



・子守地蔵尊



項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
中区の成り立ち・歴史・文化をいまに伝える事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成25年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載 している内容	およそ400年前の清須越以来、名古屋の中心で脈々と伝えられてきた中区の魅力を市民グループと協働で発信し、中区の成り立ち・歴史・文化をいまに伝える。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・令和元年10月27日(日) 第24回堀川文化歩こう会「飯田街道界隈を歩く」を開催。参加者40名 ・令和元年11月17日(日) 第44回堀川文化講座「怪談としての乱歩文学を斬る～名古屋都市伝説を中心に～」を開催。終了後「おから猫ドーナツ」を参加者に配布。参加者90名 ・令和2年3月 中区歴史紙芝居動画を作成			
・		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		今後も継続して、市民グループと協働しながら魅力を発信していく。	
状況を示す写真や資料等			
第24回堀川文化歩こう会「飯田街道界隈を歩く」(令和元年10月27日)			
			
第44回堀川文化講座「怪談としての乱歩文学を斬る～名古屋都市伝説を中心に～」(令和元年11月17日)			
			
中区歴史紙芝居動画(令和2年3月作成)			
			

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
熱田区役所における歴史資料展示		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成22年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 熱田区役所1階に「熱田区歴史資料展示コーナー」を設け、故福島重夫氏等から寄贈された歴史資料を展示する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

年2回の展示替及び区民まつり、生涯学習まつりでの展示を行った。
 歴史資料室収蔵の歴史資料を使用して、区内で展示事業を実施し、併せて熱田区歴史資料展示コーナーのPRを行った。
 歴史資料の分類整理については、展示替え作業及び各所での展示と並行して、システムのデータベース化を実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	課題: 熱田区歴史資料展示コーナーの認知度を高めること 対応方針: 庁舎内の案内表示やホームページの充実

状況を示す写真や資料等



展示の様子

第20回展示「熱田魚市場」
H31.4.1～R元.9.20

アンケート回収 37名
 【展示内容について】
 よかった………24名
 ふつう………12名
 よくなかった………0名
 未記入………1名



資料: 尾張国熱田港魚問屋
 石原三右衛門(引札)など

第21回展示「熱田と街道」
R元.10.1～R2.3.30



展示の様子

R元.11.13～R2.1.31の期間は、熱田
 まるごと博物館事業とコラボ



熱田区民まつり「にぎわい秋まつり」
R元.10.13



展示ブースの様子

R元.11.17金山総合駅(イベント広場)会場の展示の様



熱田まるごと博物館
 R元.11.13～R2.1.31

○展示会場
 ・金山総合駅(1日限り)
 来場者: 約2,500名
 ・名古屋都市センター(展示協力)
 ・熱田区内施設など8か所
 ○展示歴史資料 約80点
 ○企画について、「よかった」「まあまあよかった」の割合96.4%

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
名古屋まつり			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和30年度～		
支援事業名	市単独事業（名古屋市、愛知県、名古屋商工会議所を構成員とする名古屋まつり協進会で実施）		
計画に記載している内容	昭和30年に戦災復興を祝して始まり、山車揃や郷土英傑行列など名古屋の歴史にちなむ催しも多い名古屋まつりを継続して開催する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
名古屋まつりを開催し、多くの市民及び本市来訪者等に、市の伝統・文化・魅力に触れていただくなど、歴史的風致の維持向上に寄与した。			
令和元年(第65回)名古屋まつり(10月19日(土)・20日(日))を中心に開催)			
【主な事業】			
・英傑行列を始めとした行列			
・久屋大通公園を中心とした会場行事			
【人出】			
令和元年度 153万人(雨天のため、土曜日のパレードを中止)			
平成30年度 221万人			
平成29年度 24.3万人(台風21号の接近)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		今後も、まつりを通じて名古屋の伝統、文化、魅力に触れてもらうことを目的に計画的に実施。	

状況を示す写真や資料等

行列

郷土英傑行列
(令和元年10月20日)山車揃
(令和元年10月20日)

会場行事

久屋大通公園会場
(令和元年10月20日)久屋大通公園会場
(令和元年10月20日)

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
山車祭り等の伝統行事の継承事業や山車などの保存修理事業、 及びわくわく文化財普及事業など文化財公開活用事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和47年度～		
支援事業名	市単独事業 ※文化遺産を活かした地域活性化事業・愛知県文化財保存事業費、文化財保存事業費国庫補助		
計画に記載 している内容	指定文化財である山車祭り等、地域の民俗芸能・伝統行事の継承や山車などの保存修理等について補助するとともに、市内遺跡から出土した遺物を展示し、公開活用する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・市内の無形文化財や民俗文化財の継承のために必要な用具の修理・新調および練習等に係る補助を行うことで、民俗芸能・伝統文化の継承や後継者の育成を行うことができた。 補助件数 令和元年度24件、平成30年度26件、平成29年度31件、平成28年度19件(市単独事業のみ) ・名古屋の歴史や文化の魅力を紹介する観光情報アプリ「なごや歴史探検」の機能強化を図った。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	専門家による現地での現況確認・修繕方法の指導などを通じて、文化財の保存技術の向上を図っていく。		

状況を示す写真や資料等



緑区有松東町布袋車の幕修理についての有識者による修理指導

若宮八幡宮福祿寿車大柱修理事業
(修理事業者・保存会・教育委員会で作業方法を確認)

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
伝統産業若手育成事業助成			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成5年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	伝統産業に従事する人材の定着の促進を図るため、その若手技術者を育成する市内企業に対して補助金の交付を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
「伝統産業若手技術者育成事業費補助金交付要綱」に基づき、名古屋伝統産業協会会員団体に所属する市内企業に対し補助金を交付した。(同協会は昭和54年に市内伝統産業の産地組合により設立。構成:12業種11団体) ・平成29年度補助金交付件数:12件 ・平成30年度補助金交付件数:7件 ・令和元年度補助金交付件数:7件			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	今後も伝統産業を担う人材の支援を通じ、産業の伝承・発展を促進していく。		
状況を示す写真や資料等			
【名古屋の伝統産業】 ・有松・鳴海絞 ・名古屋節句人形 ・木桶 ・七宝 ・名古屋桐箆笄 ・名古屋扇子 ・名古屋提灯 ・名古屋仏壇 ・名古屋友禅 ・名古屋黒紋付染 ・和蠟燭 ・尾張仏具			
		【名古屋友禅】 享保年間に京都から伝わる。「手描友禅」と「型友禅」の二つの技法があり、単彩濃淡調の渋い色使いが特徴。 補助金交付団体名 名古屋友禅黒紋付協同組合連合会	
		【七宝】 天保年間に尾張海東郡の梶常吉により技法が確立。ガラスのきらめく様子や折り重なる色彩の深みが特徴。 補助金交付団体名 名古屋七宝協同組合	

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
伝統産業新商品開発事業助成			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成5年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	伝統産業製品の新たな需要開拓を図るため、市内伝統産業の業界団体が行う現代感覚にあった新商品開発事業に対して補助金の交付を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
「伝統産業新商品開発事業費補助金交付要綱」に基づき、名古屋伝統産業協会会員団体に対し補助金を交付した。(同協会は昭和54年に市内伝統産業の産地組合により設立。構成:12業種11団体) ・平成29年度補助金交付件数:2件 ・平成30年度補助金交付件数:2件 ・令和元年度補助金交付件数:3件			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	今後も現代ニーズに合った商品開発の支援を通じ、産業の伝承・発展を促進していく。		

状況を示す写真や資料等



▲ 明治初期には貴重な輸出品として、全国一の生産を誇った。盆提灯、観光土産用の地張提灯、祭・神社仏閣・看板提灯などを現在も多く生産。

- ・補助金交付団体名 名古屋提灯製造組合
- ・新商品名 「LEDコードレスちょうちんのユニバーサルユニット」



▲ 江戸期より名古屋城下において、下級武士の内職として興る。木製漆塗り製品を中心とし、仏具以外にも神具、祭礼具などの製造も行う。

- ・補助金交付団体名 尾張仏具技術保存会
- ・新商品名 「照明器具(テーブルスタンド)」



◀ 江戸時代中期、元禄年間より製造が始まったとされる。名古屋仏壇は台の部分が高く、宮殿御坊造を代表とした豪華な構造が特徴。

- ・補助金交付団体名 名古屋仏壇商工協同組合
- ・新商品名 「尺三春慶「語らい」」

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
伝統産業製品PR事業助成			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成14年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	伝統産業製品に対する需要を喚起するため、広く消費者に伝統産業製品のPRをするイベントの出展経費及びPRのための冊子・パンフレット等を作成する経費等に対して補助金の交付を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
「伝統産業製品PR事業補助金交付要綱」に基づき、名古屋伝統産業協会会員団体に対し補助金を交付した。(同協会は昭和54年に市内伝統産業の産地組合により設立。構成:12業種11団体) ・平成29年度補助金交付件数:5件(PR冊子等作成:2件、体験教室等:3件) ・平成30年度補助金交付件数:7件(展示会等出展:1件、PR冊子等作成:3件、体験教室等:3件) ・令和元年度補助金交付件数:6件(展示会等出展:3件、PR冊子等作成:2件、体験教室等:2件)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		今後も伝統産業製品のPR支援を通じ、産業の伝承・発展を促進していく。	
状況を示す写真や資料等			
 ・補助金交付団体名 尾張仏具技術保存会 ・事業内容 ホームページ制作  ・補助金交付団体名 尾張仏具技術保存会 ・事業内容 小学生向け体験教室  ・補助金交付団体名 名古屋友禅黒紋付協同組合連合会 ・事業内容 小学生向け体験教室  ・補助金交付団体名 名古屋提灯製造組合 ・事業内容 パンフレット作成			

評価軸③-34

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
名古屋市民芸術祭			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成2年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	総合的な市民文化芸術の祭典として、毎年、10月・11月の2ヶ月間にわたって、主催事業とコンテスト方式の参加公演事業を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
参加公演事業では、伝統芸能などの4部門で参加を募り、部門ごとに市民芸術祭賞・市民芸術祭特別賞を授与した。 (伝統芸能部門 参加公演数: R1, H29, H28は4公演 H30は3公演 市民芸術祭賞: R1, H30, H29は1公演 H28は該当なし 市民芸術祭特別賞: R1, H30, H29, H28は1公演)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		公演によっては、日程の都合上、実地審査への参加が難しい審査員もいらっしゃるが、できる限り多くの審査員に各公演にご参加いただけるよう、引き続き調整を図っていく。	
状況を示す写真や資料等			
 第6回 桜美の会 一部 日程: 11月23日(土・祝) 会場: 名古屋能楽堂			
●参加公演事業(伝統芸能部門) 令和元年度(参加公演数 4公演) ・市民芸術祭賞 「第6回 桜美の会 一部」 参加者数580名 ・市民芸術祭特別賞 「杵屋喜鶴 喜鶴の調べ～垣根を越えて～」 (チャレンジ賞) 参加者数473名 平成30年度(参加公演数 3公演) ・市民芸術祭賞 「杵屋見佳 長唄三味線演奏会～My Mother's Long Wish～」 参加者数300名 ・市民芸術祭特別賞 「都山流尺八峰山会 (企画賞) 竹の響き VOL.5『管管共響』～洋々たる奏楽の音～」参加者数330名 平成29年度(参加公演数 4公演) ・市民芸術祭賞 「箏曲正絃社 野村正峰生誕90周年記念 “創造”のDNA－和楽の響き」参加者数597名 ・市民芸術祭特別賞 「園美の会舞踊公演一部 第四回桜美の会」参加者数280名 (精励賞) 平成28年度(参加公演数 4公演) ・市民芸術祭賞 該当なし ・市民芸術祭特別賞 「第15回狂言三の会公演 十四世野村又三郎 (精励賞) 斯道四十周年記念」参加者数220名			

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
なごや子どものための巡回劇場			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和55年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	次代を担う子どもたちを対象に、伝統芸能・人形劇・児童劇・交響楽・バレエなどを身近な生活圏において、低料金で楽しんでもらうため、文化小劇場や区役所講堂・ホールを会場に、各区を巡回して公演を行っている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
子どもたちを対象とする伝統芸能の公演として、平成30年度は狂言の公演を実施。(平成30年度入場者数:327人) 令和元年度は伝統芸能分野での実施はなかったが、令和2年度は実施予定となっており、次代を担う子供たちに、名古屋の伝統文化を身近に触れてもらう機会を提供する。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		本事業における他ジャンルの公演に比べ、来場者が少ない傾向にあるが、子どもたちにとっては、数少ない伝統芸能に触れる機会であるため、より多くの方にご来場いただけるよう、実演団体等と引き続き協力していく。	
状況を示す写真や資料等			
令和元年度は人形劇・児童劇等は計画通り実施したが、伝統芸能分野での実施はなかった。			
※H30 年度公演の様子   			

評価軸③-36

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
名古屋市芸術文化団体活動助成			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和48年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	伝統芸能の活動団体など、市内を活動の基盤とする芸術文化団体の日常活動の成果発表事業の経費の一部を助成することにより、市民の芸術文化活動の振興を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
伝統芸能分野(鑑賞団体への助成実績) 令和元年度 0件、平成30年度 1件、平成29年度 2件、平成28年度 2件 音楽分野(邦楽)助成実績 令和元年度 0件、平成30年度 1件、平成29年度 2件、平成28年度 2件			
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)			
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	伝統芸能の分野については、毎年申請が少ない状況にある。補助年限が決まっているため、長く活動している団体は既に交付年限が切れてしまっていることが多いことや、伝統芸能の分野で新興団体が少ないことが理由として考えられるが、出来るだけ多くの団体に活用していただけるよう、今後もより効果的な周知方法を検討していく。		
状況を示す写真や資料等			
○補助対象となる団体 音楽・演劇・舞踊・伝統芸能・美術・映画等の芸術文化の領域において、組織的、継続的に創造・鑑賞及び研究活動を行い、当該年度の4月1日現在で、創立3年以上を経過し、直近3年間で1回以上名古屋市内での自主文化活動実績がある団体 ○補助対象となる事業 当該年度の4月1日から3月31日までに実施される(全事業が完了するもの)、広く市民を対象にした市内公開事業、政令指定都市等で実施する事業で、営利を目的としないもののうち、下記表の左欄に該当するもの ○補助対象とならない事業 ①政治的または宗教的な事業 ②稽古ごと・習いごと等のおさらい会や発表会 ③チャリティー事業 ④名古屋市から助成金を得て実施される事業 ⑤文化芸術団体以外との共催事業 ⑥名古屋市の外での会場で行う事業など			
補助対象となる事業		補助金の額	
1 音楽・演劇・舞踊・伝統芸能等の舞台関係の創造団体が、構成員自らの出演による舞台公演を市内の会場で行う場合		会場使用料の2分の1以内の額。ただし、15万円を限度とする。	
2 絵画・書・彫塑・工芸・写真等の美術創造団体が、構成員自らの作品を市内の会場で発表する展覧会		会場使用料以内の額または事業総経費の2分の1のうち、いずれか低い額。ただし、15万円を限度とする。	
3 映画を自分たちで創る団体が自らの作品を市内の会場で発表する上映会			
4 音楽・演劇・舞踊・伝統芸能等の舞台芸術及び映画の鑑賞団体が、構成員自らの自主性に基づく企画で市内の会場を使用して行う鑑賞会		会場使用料の2分の1以内の額。ただし、15万円を限度とする。	
5 芸術文化団体が政令指定都市または東京都特別区で実施する上記1～3の事業(他都市事業)で、その前後6月以内に、事業の事前周知又は成果の発表のために行う同種の市内事業を伴うもの(都市交流事業)		上記1は会場使用料の2分の1以内の額。2、3は会場使用料以内の額または事業総経費の2分の1のうち、いずれか低い額。ただし、他都市事業及び市内事業それぞれが15万円を限度とする。	

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
項目			
文化財調査、市町村による文化財指定、保存管理(活用)計画の策定・見直しなど		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
計画に記載 している内容	重点区域内に残る市指定文化財の山車などの保存及び活用を引き続き支援していく。また、志段味地区を重点的に施策を展開し、主要な古墳については、史跡指定を検討し、保存を担保するとともに、基本計画の策定を進めていく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・市域南部東海道周辺の祭礼行事について調査事業を継続実施した。各町内にのこる文書類を記録化し刊行した。 ・市指定文化財の指定にむけた調査を実施した。			
		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	文化財調査、文化財指定を通じて、文化財を後世に引き継いでいく。		

状況を示す写真や資料等

【東海道周辺の山車行事調査】

- ・鳴海・有松などの祭礼文化、山車行事について
詳細調査を実施



【刊行した山車行事総合調査関連資料集】 【令和元年度に実施した有松祭りの装束調査並びに写真撮影】



【令和元年度に調査した鳴海の秋葉講】

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
文化財に関する事業(修理・修景、復元等)、文化財の周辺環境(道路・博物館等施設)に関する事業など			☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	・「歴史の里」整備事業(古墳等の整備) ・「歴史の里」整備事業(全体ネットワーク化事業) など		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
「歴史の里」整備事業については、平成31年4月に古墳群の拠点となる施設「体感！しだみ古墳群ミュージアム」がオープンし、154,591人が来館した。また、全体ネットワーク化を図るための案内板、サイン等の整備は平成30年度に完了した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
○「歴史の里」整備事業(古墳等の整備)  (外観図)  (展示室) 展示収蔵施設【体感！しだみ古墳群ミュージアム】 ○延床面積 1,560㎡ ○主な居室 展示室・収蔵庫、体験活動室、キッズコーナー「こどもこふん」、カフェレストランなど			

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
・防災・防犯に関する事業(防火・防犯のための施設設備の設置・改修等) ・文化財防火デー等の防災訓練の取組			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	指定文化財に設置された消防設備の確認や防火訓練、防犯設備や防犯体制についての確認、志段味地区の古墳の安全管理施設の整備等、文化財パトロール員の巡視等		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
文化財施設・所有者のうち、文化財防火デーに合わせて16施設を抽出し、市消防署及び自衛消防団と協力・連携して防災訓練及び消防施設・防犯設備の査察を実施している。 また、市文化財パトロール員を活用し、志段味地区の古墳を含めた市内に存する文化財を定期的に巡視し、災害等の報告を受けた場合はすぐに対応して文化財の保護・管理に努めている。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	指定文化財建造物の件数が非常に多いため、順次ローテーションを図りながら巡視を継続し、防犯設備の充実を働きかける必要がある。		
状況を示す写真や資料等			
文化財防災デー(令和2年1月24日)における防災訓練の実施 <熱田神宮>  バケツリレーでの消火活動  放水訓練 <建中寺>  宝物の搬出訓練  消火器による初期消火			
【令和元年度 文化財防災デー消防訓練実施施設(計16施設)】 揚輝荘・覚王山日泰寺(千種区)、徳興山建中寺(東区)、味鋺山天永寺護国院(北区)、大乃伎神社(西区) 豊国神社(中村区)、大須観音寶生院(中区)、八事山興正寺(昭和区)、熱田神宮上知我麻神社(熱田区) 牛立八幡社(中川区)、当知神明社神楽保存庫(港区)、富部神社(南区)、竜泉寺(守山区)、瑞泉寺(緑区)			

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への助成・支援（保存会への支援、用具の修理、担い手の育成等）、民間団体と連携・協力した取組、民間団体が実施した取組等		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容	・「歴史の里」整備事業（全体ネットワーク化事業） ・「歴史の里」整備事業（公開活用事業） ・山車祭り等の伝統行事の継承事業や山車などの保存修理事業、及びわくわく文化財普及事業など文化財公開活用事業 など
-------------	---

定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で

平成31年4月に古墳群の拠点となる施設「体感！しだみ古墳群ミュージアム」がオープンし、154,591人が来館した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	引き続き、体感！しだみ古墳群ミュージアムをはじめとした「歴史の里 しだみ古墳群」へ多くの方に来訪していただけるよう、様々なイベントを実施していく必要がある。

状況を示す写真や資料等



しだみゆー秋まつり



西大久手古墳の発掘調査体験

日付	名 称	参加人数
4月14日（日）	しだみゆーシンポジウム	171人
5月 5日（日）	しだみゆー春まつり	2,960人
6月 2日（日）	しだみゆー寄席	81人
6月28日（日）	寄せ植え講座	13人
7月13日（土）～ 9月29日（日）	リアル謎解きゲーム	2,585人
7月28日（日）	夜の音楽会 in しだみ古墳群	250人
7月31日（水） 8月22日（木）	石から絵具をつくろう！	138人
8月4日（日）	サンドアート	263人
8月6日（火）、7日（水）	開設！自由研究相談所	8人
11月10日（日）	しだみゆー秋まつり	13,379人
12月1日（日）	しだみゆー寄席	42人
3月19日（木）	寄せ植え講座	中止
計		19,890人
（注）季節の主なイベントを記載		

評価対象年度		令和元年度
項目		現在の状況
埋蔵文化財の取り扱いに関する方針(具体的な計画)		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	・埋蔵文化財包蔵地についての周知及び開発との適切な調整(①) ・市内での開発行為における住宅都市局建築審査課との連携(①) ・名古屋城跡・志段味古墳群の発掘調査など(②～④)	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
平成29年度:文化財保護法第93条に基づく届出提出の啓発チラシを、住宅都市局建築審査課等の関係機関に配布。名古屋市公式ウェブサイトにて埋蔵文化財の取り扱い等に関する説明ページを掲載。 名古屋城二之丸庭園発掘調査、勝手塚古墳・白鳥6号墳・東谷山12号墳発掘調査 平成30年度:文化財保護法第93条に基づく届出提出の啓発チラシを、住宅都市局建築審査課等の関係機関に配布。名古屋市公式ウェブサイトにて埋蔵文化財の取り扱いに関する説明ページを掲載。 名古屋城跡勝手馬出石垣解体にともなう発掘調査、名古屋城二之丸庭園発掘調査、勝手塚古墳発掘調査 令和元年度:文化財保護法第93条に基づく届出提出の啓発チラシを、住宅都市局建築審査課等の関係機関に配布(①)。名古屋市公式ウェブサイトにて埋蔵文化財の取り扱いに関する説明ページを掲載(①)。 名古屋城跡本丸内堀石垣発掘調査(②)、名古屋城二之丸庭園発掘調査(③)、西大久手古墳発掘調査(④)		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	埋蔵文化財包蔵地における文化財保護法の手続きを、より周知していく必要がある。	
状況を示す写真や資料等		
 ①埋蔵文化財届出啓発チラシ  ①民間開発に伴う発掘調査: 松ヶ洞18号墳(2020.3.19)  ②名古屋城跡本丸内堀石垣発掘調査 (2020.1.14)  ③名古屋城二之丸庭園発掘調査(2020.3.4)  ④志段味古墳群・西大久手古墳発掘調査(2019.12.9)		

評価軸⑤

効果・影響等に関する報道

評価対象年度		令和元年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等
古墳時代体感できる！上志段味に「ミュージアム」オープン	平成31年4月16日	中日新聞
江戸の障壁画本丸御殿に復活	令和1年5月23日	朝日新聞
雨の街華やぐ 名古屋まつり開幕	令和1年10月20日	中日新聞
東浜御殿 熱田町おこし	令和2年1月28日	中日新聞

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

計画に位置付けられた事業のうち、特に新たな展開のあった事業や歴史まちづくりに関わるイベント等について、報道により市民の関心の向上につながったと考えられる。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし	今後もメディア等を通じて市民の関心に訴えていく必要がある。

状況を示す写真や資料等

[illegible]

平成31年4月16日 中日新聞

江戸の障壁画 本丸御殿に復活

名古屋城 あすから来月10日まで公開

名古屋城本丸御殿で24日から、国指定の重要文化財である障壁画「梅竹雀図」と「花卉図」の実物を特別展示する。本丸御殿が戦災で焼失する前と同じ場所にはめ込んで一般公開し、往時の雰囲気味わえるという。6月10日まで。

名古屋市によると、江戸時代初期の狩野派の絵師による計4枚のふすま絵で、表と裏に「梅竹雀図」と「花卉図」がある。梅やツツジなどの花がスズメとともに淡い色彩で描かれ、1634年に3代将軍徳川家光が上洛する際に増築された「上旬膳所」にあった。

本丸御殿は1945年の空襲で天守とともに焼失した



が、今回の障壁画は城内の倉庫に移されて難を逃れた。普段は復元模写されたものがはめ込まれ、実物は収蔵庫で保管している。

午前9時～午後5時半。
大人500円。中学生以下無料。問い合わせは、名古屋城総合事務所（052・231・1700）。（堀川勝元）

令和元年5月23日 朝日新聞

[illegible]

令和元年10月20日 中日新聞

[illegible]

令和2年1月28日 中日新聞

項目		評価対象年度	令和元年度																																																		
観光客数の動向について																																																					
計画に記載している内容																																																					
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付																																																					
本丸御殿の復元工事・公開をはじめ、文化財の整備が進む名古屋城において、入場者数が右肩上がりであったが、令和元年度においてはコロナウィルスの影響で17万人減となった(例年3月期の入場者数が多数のため、影響が大きい)。本市全体の観光客入込数については、平成20年度からの10年間の傾向では増加傾向にあるが、令和元年～2年ではコロナウィルスの影響で大きく減少すると見込まれる。(統計上H30年までしか公表されていない)																																																					
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)																																																			
□計画の進捗に影響あり ■計画の進捗に影響なし		コロナウィルスの影響で観光客が激減しているため、今後の国内・海外の状況を見極めながら、それに対応していく必要がある。																																																			
状況を示す写真や資料等																																																					
名古屋城入場者数の推移 <table><caption>名古屋城入場者数の推移 (万人)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>入場者数(万人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H20</td><td>124.6279</td></tr><tr><td>H21</td><td>135.2344</td></tr><tr><td>H22</td><td>151.7727</td></tr><tr><td>H23</td><td>141.4769</td></tr><tr><td>H24</td><td>147.2305</td></tr><tr><td>H25</td><td>165.737</td></tr><tr><td>H26</td><td>164.1787</td></tr><tr><td>H27</td><td>174.0178</td></tr><tr><td>H28</td><td>191.9479</td></tr><tr><td>H29</td><td>190.27</td></tr><tr><td>H30</td><td>220.6</td></tr><tr><td>R01</td><td>203.626</td></tr></tbody></table> 名古屋市観光入込客数の推移 <table><caption>名古屋市観光入込客数の推移 (延べ人数)</caption><thead><tr><th>年度(年)</th><th>観光入込客数(万人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H20</td><td>5247.5989</td></tr><tr><td>H21</td><td>5460.4761</td></tr><tr><td>H22</td><td>5365.5002</td></tr><tr><td>H23</td><td>5487.076</td></tr><tr><td>H24</td><td>5451.403</td></tr><tr><td>H25</td><td>6516.1216</td></tr><tr><td>H26</td><td>6701.5842</td></tr><tr><td>H27</td><td>6843.6597</td></tr><tr><td>H28</td><td>7043.5643</td></tr><tr><td>H29</td><td>7091.76</td></tr><tr><td>H30</td><td>7093.16</td></tr></tbody></table> 出典:平成30年名古屋市観光客・宿泊客動向調査(令和元年12月公表) ⇒観光庁が定める「観光入込客統計に関する共通基準(平成25年3月改訂)」に基づき 平成29年より調査期間を年度から暦年に変更。				年度	入場者数(万人)	H20	124.6279	H21	135.2344	H22	151.7727	H23	141.4769	H24	147.2305	H25	165.737	H26	164.1787	H27	174.0178	H28	191.9479	H29	190.27	H30	220.6	R01	203.626	年度(年)	観光入込客数(万人)	H20	5247.5989	H21	5460.4761	H22	5365.5002	H23	5487.076	H24	5451.403	H25	6516.1216	H26	6701.5842	H27	6843.6597	H28	7043.5643	H29	7091.76	H30	7093.16
年度	入場者数(万人)																																																				
H20	124.6279																																																				
H21	135.2344																																																				
H22	151.7727																																																				
H23	141.4769																																																				
H24	147.2305																																																				
H25	165.737																																																				
H26	164.1787																																																				
H27	174.0178																																																				
H28	191.9479																																																				
H29	190.27																																																				
H30	220.6																																																				
R01	203.626																																																				
年度(年)	観光入込客数(万人)																																																				
H20	5247.5989																																																				
H21	5460.4761																																																				
H22	5365.5002																																																				
H23	5487.076																																																				
H24	5451.403																																																				
H25	6516.1216																																																				
H26	6701.5842																																																				
H27	6843.6597																																																				
H28	7043.5643																																																				
H29	7091.76																																																				
H30	7093.16																																																				

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和元年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 名古屋市歴史的風致維持向上計画懇談会(書面会議)	
会議等の開催日時: 令和2年5月19日(火)～5月29日(金)	
(コメントの概要)	
<主な個別事業等について> ・名古屋城西之丸外構工事調査、本丸搦手馬出石垣修復事業を優先して行うべきではないか。 ・②-1「景観計画」について、名古屋城眺望景観保全エリアを設けたことは、歴史的風致を維持するうえで評価できる。 ・③-1「名古屋城重要文化財等展示収蔵施設の整備」について、特別史跡名古屋城の適切かつ厳格な保存を最優先に考慮し、事業を実施すること。 ・③-5、6、7、19・・・「文化のまちの推進」により、各所のイベントなどが行われ、集客も向上し、名古屋の歴史文化地区として定着している。今後も引き続き市民、市民団体などとの連携を一層進めることが大切と思われる。 ・③-9、10「歴史的町並み保存事業」では伝統的建造物の修理や修景の累積数がかかなり多くなっており、成果が上がっているようである。 ・③-17「歴史的建造物の登録・認定」の制度も一定の成果があると言ってよい。その一方で、この制度の限界や課題もあると考えられる。それらも明らかにして今後の改善につなげてほしい。 ・③-24「郷土ゆかりの文学資料室」については、調査・保存を継続進展していただきたい。 ・④-5「埋蔵文化財の取り扱いに関する方針」については、チラシだけでなく広報誌等を幅広く活用することも考えてはどうか。	
(今後の対応方針)	
・事業の進捗状況を市民によりわかりやすく伝えるため、制度内容や指標などについては特に留意し、今後も具体的かつ詳細な記載に努める。 ・歴史的建造物の登録・認定については一定の成果が上がっているが、登録・認定件数の増加に伴い発生するであろう課題に向けて検討していく必要がある。 ・全体を通し、進捗評価が各事業の一層の推進ないし見直しの契機となるよう、今後とも努める。	